



なかむら
 中村 繁夫氏

プロフィール

74年(昭49)静岡大院
 材工業化学科修士修了、同
 年蝶理入社。レアメタルの
 開発輸入に携わり、03年蝶
 理アドバンストマテリアル
 社長、04年経営者・従業員
 による事業買収(MBO)
 により独立し、アドバンス
 トマテリアルジャパン社
 長。京都府出身、59歳。

本書を通して伝えたいこと
 は。

「デジタル家電に欠かせない
 インジウムなどレアメタル(希
 少金属)の国際相場が近年高騰
 している。だが、資源を持たな
 い日本の産業界は中国からの輸
 入に頼り、対策をほとんど立て

著者
 登場

ておらず、警鐘を鳴らしたかっ
 た。また、価格高騰にもかかわらず、原料となるレアメタルから部品や中間材料を製造するメーカーは、最終製品メーカーのコスト削減圧力に押され、上昇分を部品価格に転嫁できていない。『利益なき繁忙』を極めている部品・材料メーカーの弱い立場を改善したいという思いもあった。

「高騰するレアメタル市況に
 対して、早急に行うべきことは
 何ですか。」

レアメタル資源争奪戦
 —ハイテク日本の生命線を守れ—

(日刊工業新聞社刊、03・5644・7400)

原料確保へ危機意識促す

「鉱物資源をほとんど持たない日本は今後どうすればいいのでしょうか。」

「日本は資源がないからこ
 そ、逆に技術力で生き残ってい
 ける。日本の持つ最先端の材料
 技術を生かして代替資源の開発
 やリサイクル技術の研究を推進
 し、そこで生まれた技術を資源
 国で活用し、資源を輸入するこ
 いう共生思想で取り組んでいく
 ことが必要だ。ただ、技術を何
 でも輸出すればいいわけではない。
 現実には、中国企業が高い技
 術を持った日本の中小企業を買
 収する動きがある。国家レベル
 で最先端の技術を日本国内で保
 持できるような仕組みを確立し
 ていかなければならない」

「日本はこの資源争奪戦に勝
 てますか。」

「日本はかつて石油危機を受
 けて徹底した省エネを進め、そ
 こから最先端の技術を開発し
 た。日本人は危機意識を普段持
 っていないが、一度持つと非常
 に大きな力を発揮する。現在の
 状況に対し、危機感を持って一
 致団結することができれば大丈
 夫だ」

(東和宏)